



▲ことしの4月には糸島三都110キロウォーク大会を完歩しました

ひろみ  
**梅田 廣美**さん (向野)

公式大会 196回出場

大会で歩いてきた距離約7,100km

(H27.12月現在)

歩くからこそ二度と会えない風景に出会える

まさに

一期一景



いろんな道を歩いてきた。これまで参加した大会は196回。大会で歩いた距離は7100kmを超える。年間約20回以上のウォーキング大会に出場。九州で行われている大会にとどまらない。「ウォーキングの魅力は、気軽に誰でも楽しめる場所ですね。誰かと競い合ったり、良い順位・タイムでゴールしたりすることで、老若男女誰でも楽しめます。また、周囲の景色を見ながら歩くことができたり、誰かとおしゃべりしながら歩いたり、そういった他の競技スポーツとは違う楽しみ方があることに、魅力を感じています」。

ウォーキングを始めたのは51歳の時。きっかけは、友人が出場していた『いぶすき菜の花マラソン』を見たことだった。「頑張っている姿を見て、自分も頑張らなければな、と思いました。しかし、いきなりマラソン大会に出場するとなると、体力に自信があるわけでもなかったため、気軽に始められるウォーキングを選びました」と振り返る。

その年、初めてのウォーキング大会に参加した。大会は『いぶすき菜の花マラソン』（鹿児島県指宿

市）。友人と同じ地でウォーキング人生の一步を踏み出した。それから16年間、歩みは止まらない。「やはり『一期一景』を楽しみながら歩いてきたからこそ、これまでずっと続けることができたと思います」。

「一期一会」ならぬ「一期一景」。その時見た景色は二度と見ることができないという。

「16年間続けてきた中で、同じ道を歩くことも当然あります。しかし、以前見た景色と全く同じ景色は見たことがありません。なので、同じ道を歩く時でも、『前来た時とはここが違うな』『次にここを歩くときはどんな景色が見えるのかな？』って、それがおもしろいです」と目を輝かせる。

「目標は47都道府県を制覇する事と、毎年10月に行われている行橋〜別府100kmウォークにあと7回出場して、累計10回の完歩を果たすこと」と力強い。

観光ではないようなところを歩き、観光では食べないものを食べ、観光では会えないような人と会う。バスや電車での移動では味わえないものをウォーキングが教えてくれた。これからもまだ、その足は進み続ける。一步一步。